

Title	ドラマのシナリオに見られる「励まし発話」の諸相
Sub Title	
Author	田中, 妙子(Tanaka, Taeko)
Publisher	慶應義塾大学日本語・日本文化教育センター
Publication year	2015
Jtitle	日本語と日本語教育 No.43 (2015. 3) ,p.19- 35
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	論文
Genre	Departmental Bulletin Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00189695-20150300-0019

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

ドラマのシナリオに見られる 「励まし発話」の諸相

田中 妙子

1. 研究の目的

日本語教育、特に口頭表現の分野においては、依頼・勧誘・謝罪等、一定の表現意図の下に行われる発話行為を取り上げ、その言語形式や表現方法を学習者に示すということが行われている。そのような口頭表現教育への一助とするため、筆者は、田中(2012,2013,2014)において、相手を慰めるという表現意図を持つ発話が意味と言語形式の面でどのような特徴を持つかを分析した。続いて本稿では、表現意図の面で慰めと共通点のある励ましについて論ずる。従来、相手を励ます発話は、相手を慰める発話と同列に扱われることが多かったが、本稿ではこの二つの表現意図を異なるものとして分けて扱う立場をとり、励ましの発話に見られる特徴を明らかにする。

2. 先行研究

上述のように、従来、励ましと慰めは表現意図の面で同じカテゴリーのものとして扱われることが多かった。詳細は田中(2012)に述べたが、これまでに行われてきた慰めや励ましの定義を改めてまとめる。

①関山(1998)「慰め・激励」表現

「何らかの困難や苦勞に直面している者に対し、その困難や苦勞を癒したり、克服する手助けをすることを目的とした発話行為。」

②黒川(2001)「励まし」行為

「何らかの不幸や困難に直面している相手の心理状態を回復させるこ

とを目的とした言語的・非言語的行為。」

③塩見・米澤 (2008)「慰め・励まし」

「相手が肉体的・精神的に問題・困難を抱えていると認知した際の人
がとる行動」

関山 (1998) は「慰め」と「激励」、塩見・米澤 (2008) は「慰め」と「励まし」という用語で二つの行為を一括して論じている。黒川 (2001) は、「励まし」が相手の心理状態を回復させることに焦点があり、緩和を目的とした「慰め」とは異なるとしているが、関山の述べる「慰め」の特徴が、黒川の「励まし」にも共通するものであるとも述べ、両者の差異には詳しく触れていない。

上記のいずれの定義でも触れられているように、慰めと励ましには、ある困難・問題を抱えている相手に働きかけるという点で共通点が見られる。しかし一方で、先行研究でも指摘されているとおり、その働きかけ方には異なる点もあるため、本稿では異なる発話行為として次項のとおり定義することとする。

3. 「励まし発話」の定義

筆者は慰めの表現意図を持つ一まとまりの発話を「慰め発話」、励ましの表現意図を持つ一まとまりの発話を「励まし発話」とし、田中 (2012) で述べたとおり、両者を下記のように定義する。

慰め発話：会話において、悲しみ・不安・不満・後悔など、何らかの負の感情を持っている相手に対し、その負の感情を和らげる、あるいは解消させることを目的として行う一まとまりの発話。

励まし発話：悲しみ・不安・不満・後悔など、何らかの負の感情を持っている相手に対し、負の感情を解消させつつ、将来における何らかの積極的な行為を促す一まとまりの発話。

前者は相手の気持ちを落ち着かせることに主眼があり、後者は相手を奮

い立たせて、ある行為を行わせることに主眼がある。また、「何らかの積極的な行為を促す」ということに関しては、具体的な行動を促すものと同時に、単に精神的に奮い立つ、即ち、元気になることや勇気を出すことなどを促すという場合も含める。更に、「諦めるな」「負けてはだめだ」のように否定的な表現を用いて、積極的な気持ちの維持を促すという場合も含める。

なお、会話においては励ます側と励まされる側に共通の認識があるとは限らないため、本稿では用例採取の条件を次のように規定する。

- ① ドラマの展開や発話から、登場人物（A）が悲しみ・不安・不満・後悔など、何らかの負の感情を持っていることが推測される。
- ② ドラマの展開や発話から、登場人物（B）が登場人物（A）の負の感情を認識し、好意的に負の感情を解消させつつ、将来における何らかの積極的な行為を促そうとしていることが推測される。

4. 用例

テレビドラマのシナリオを資料として、第3章の定義に該当する発話を127例採取した。この127例を母集団として分析を行う。

用例の出典は【 】内に略称とページ数を記し、稿末の「用例資料」に詳細を示す。用例は、問題とする部分を下線で示し、場面や状況に関して説明が必要な場合は[]内に記す。また、発話者が交替する部分は「/」で区切る。

5. 「励まし発話」の慣用表現

本章では、励まし発話における慣用表現を見る。ここでいう慣用表現とは、決まった言語形式を持ち、励ますという発話行為のために多用される表現のことである。まず、語彙的な面から分類すると、用例が複数回現れたものは下記のとおりである。

語彙	用例数	内訳
「がんばる」系	27 例	がんばって(ね) 6 例 がんばってください 2 例 がんばれ 5 例 がんばっ 1 例 がんばって+(受かれ) 1 例 がんばりなさい・がんばんなさい 3 例 がんばんなよ 2 例 ましよう 1 例 がんばろう(ね) 2 例 がんばってもらいますよ 1 例 がんばったらどうだ 1 例 がんばりどころや 1 例 がんばらなきゃ、+(「勇や紀子さんに怒られます」) 1 例
「元気を出す」系	9 例	元気出して 4 例 元気出せ(よ) 3 例 元気出しましょう 1 例 元気出すのよ 1 例
「生きる」系	7 例	生きるんだぞ・生き抜くんだ 2 例 生きてくれ 1 例 生きなきゃだめだ 1 例 生きてくれればいい 1 例 生きてりゃいいんだ 1 例 生きろ 1 例
「諦める」系	5 例	諦めるな/諦めんなよ 2 例 諦めちゃだめですよ 1 例 諦めたらあかん 1 例 諦めないで 1 例
「しっかりする」系	4 例	しっかりしろ 1 例 しっかりしなよ 1 例 しっかりやれ 1 例 しっかり 1 例

語彙的な面で見ると、最も多いのが「頑張ってください」「頑張りなさい」等、「頑張る」という語彙を用いたものである。続いて、「元気を出す」「生きる」、否定形を用いた形での「諦める(「諦めるな」等)」、「しっかりす

る」が挙げられる。このうち「生きる」については二種類の会話で、それぞれ発話者が連発するという形での現れ方であるため、様々な場面で頻出するとは言えない。

次に、働きかけ方を示す言語形式に注目すると、下記の形式が挙げられる。

相手に強く働きかける命令・指示、禁止の形式が多い一方で、誘いの形

働きかけ方	文末形式	例	用例数
命令・指示	命令形	がんばれ	12 例
命令・指示	～てください	がんばってください	2 例
命令・指示	て形	がんばって	10 例
命令・指示	て形+動詞	がんばって、受かれ	1 例
命令・指示	～なさい	がんばりなさい	3 例
命令・指示	～なよ	がんばりなよ	3 例
命令・指示	～んだ(ぞ)・～の(よ)	生きるんだぞ／生きるのよ	3 例
命令・指示	～なければ	生きなきゃだめだ	2 例
禁止	～ないで	諦めないで	2 例
禁止	～な	諦めるな	2 例
禁止	～てはだめだ	諦めちゃだめですよ	1 例
提案	～たらどうか	頑張ったらどうだ	1 例
誘い	～ましょう・～う(意志形)	がんばりましょう／がんばろう	4 例
依頼	～てもらいます	頑張ってもらいますよ	1 例
仮定	～ば	生きてくれればいい	2 例
省略		がんばっ／しっかり	2 例
その他		頑張りどころや	1 例

をとって話し手と相手との一体感を持たせるもの、依頼の形をとって相手への配慮を示すものなども見られた。

6. 「励まし発話」の方策

励まし発話には慣用的な表現のほか、様々な方策が見られる。本章では、何をどのように表現することが相手を励ますことにつながるのかという観点から、励まし発話を構成する諸表現の分類を行う。分類には、「話し手」(＝励ます側)、「相手」(＝励まされる側)」という用語を用いる。

6-1 相手を肯定することによって励ます

相手に関する事柄を肯定することによって、相手に自信や勇気を与えて励ます方策である。

6-1-1 相手をほめる

相手に関わる事柄をほめることで励ます。例1～3は、それぞれ相手の長所を挙げ、そのような長所があるから、ある行為が実現できるはずだという形で励ましている。

- 例1 [春平は帽子屋を止めようとしている。] 世津「(目に一杯涙をためて) 帽子屋……やめちゃ、駄目だよ」/春平「……(顔がゆがむ)」/世津「日本一の帽子屋なんだから」【帽子 43】
- 例2 [平助(＝ペーヤン)は好きな女性に告白することをためらっている。] サトシ「男だろ? 自信持てよ! 行けるって! ペーヤン、すげえいいヤツだし、面白えし……飯食うの早えし! ジュース飲むのも早えし? 電話に出るのも早えし!?」/平助「サトシ」/サトシ「あと、あと、ロケット花火ちよー遠くまで飛ばせるし!」【ごめん 26】
- 例3 [うぬぼれ(愛称)は愛する女性を助けるべきかどうか迷っている。] 里恵「(ため息) しっかりしなよ、うぬぼれ」/うぬぼれ「え?」/里恵「これ言うの久しぶりだけど、君は自分で思ってる3倍はモテるんだよ」【うぬぼれ 285】

6-1-2 相手の存在を肯定する

相手の存在を価値あるものとして肯定することによって励ます。

- 例4 芳子「……何度も何度も死にかけて、それでも今こんなに元気に生きてるゆう事は、神様がこの世界にあんたが必要やと思ったからや。だから生かしてくれたんや」/次郎「……」/芳子「……負けたらあかんよ、

あなたにしか出来んことが必ずある【白洲 146】

- 例 5 [コスメ (=村井) は性同一性障害だが、父親に認めてもらえない。] ビル「病気でもゲイでも変態でもコスメはコスメだよ、みんなおまえ好きだよ、元気だせよ」/村井「ありがとう (涙ぐむ)」/吉井「変態、では決してありませんよ」【ごめん 243】

6-1-3 相手の行為の価値を示す

相手の行為が自分、あるいは他の誰かにとって価値あるものだということを示すことによって励ます。例 6 は相手の行為が自分にとって大切だということを示し、例 7 は相手の決断が国の将来にとって必要なことだということを示している。

- 例 6 世津「つらい時は……いつも呉のことを考えた。あそこに帰りたいって……」/春平「……」/世津「でも、そういう時、この帽子を出して見るの。……今でも兄ちゃんがあそこにデンと座っていて、日本一立派な制帽を作ってるんだって……むかし通りに……今でも……だから、負けちゃいけない」/春平「……」/世津「(強い眼差しで) 最後までしっかり生きなきゃあって……」/春平「……」/世津、春平の隣に座り、春平の膝をポンと軽く叩き、/世津「だから、帽子屋やめられたら、私が困るのよ。やって欲しいのよ」【帽子 41】

- 例 7 [庭野と鮎川は通産省の官僚。コンピュータ開発をためらっている大沢無線の社長を説得しようとしている。] 庭野「戦後の貧困からようやく復興しつつあるこの国が、この先に必要なのは、新しい一歩を踏み出す勇氣と決意です」/鮎川「……」/庭野「大沢無線がその魁となる決断をするなら、我々も全力でそれを支援し、国産電算機の時代を必ず作りあげます」【官僚 130】

6-2 相手に何らかの情報を与えることによって励ます

相手を積極的な気持ちにさせる何らかの情報を示すことによって励ます方策である。

6-2-1 相手にとってプラスの情報を与える

相手にとってプラスになる情報を与えることによって励ます。例 8~10 は下線部の情報を与えることによって、それぞれ積極的に生きること、戦時下を耐え抜くこと、女友達に声をかけることを促している。

- 例 8 [神原は弁護士。依頼人が安楽死を希望していることに反対している。]
神原「でも、奇跡が起こるかも知れないじゃないですか。余命3ヶ月
と言われた人が、何年も生きた例なんて、いくらでもあります」【マチ
158】
- 例 9 [田代と金太は戦時中の日本にタイムスリップした。] 田代「しっかりせ
なアカンよ……もう少しのシンボウなんやから……8月15日、後11
日で戦争は終るんや……」／金太「うん……」【零の65】
- 例 10 [平助(=ロケット花火)はラジオ番組宛に学校で皆から中傷されてい
る女友達について手紙を書いた。DJから電話がかかる。] DJ「お便り読
みました。ロケット花火くん、つまり彼女は今、針のムシロなわけだ
よね、学校で」／平助「はい(座り直し正座に)」／DJ「だったらどんな
言葉も、今の彼女にとっては救いになるんじゃないか? 『おはよう』
でも何でもいい、まずは言葉をかけてみようよ」【ごめん78】

6-2-2 将来について希望的予測をする

相手の問題が将来解決されることを予測することによって励ます。例
11~14は、いずれも具体的な行為の促しはしていないが、相手が抱える
問題が将来解決されるだろうという予測を述べることによって、相手を精
神的に勇気づけ、積極的に行動させようとしている。

- 例 11 [洋子は芝居の大道具の色を決めかね、参考として刀研ぎの岩男に刀の
色を見せてもらう。] 洋子「これが師匠の色……」／岩男「うむ」／洋子
「ありがとうございました。これに決めさせていただきます」／岩男「成功
するよ、必ず」／洋子「なぜ?」／岩男「君の顔色がよくなったから」【袖
24】
- 例 12 [石上は自分の書いたドラマの脚本が視聴者に受けるかどうか心配して
いる。美沙は脚本を読んで、傑作だと確信する。] 美沙「先生、私鳥肌
たったわ。何度も何度も。それも体の——ずっと中の方から」／石上
「——」／美沙「先生。——これは絶対よ」【町48】
- 例 13 [台風でバイオリン製作所が壊れる。] 南伊子「(自分に言い聞かせるよ
うに) 道具は乾かせば使えるし……材料は今日から又集め直せばいい。
私も手伝うわ」／昌紘、南伊子を見る。／昌紘「……」／南伊子「大丈夫
よ、この部屋、すぐ元通りになるわ」【海峡176】
- 例 14 [紀子の夫の勇は出征している。] 幸一「大丈夫。勇は必ず無事で帰って
来ますよ。あいつが紀子さん残して死ぬわけないんだから」【さとう
31】

6-2-3 時機であることを示す

今、あるいは今後は相手にとって良い時期・機会であることを示すことによって励ます。

- 例 15 [ロケット花火 (ペンネーム) はラジオ番組宛に学校で皆から中傷されている女友達について手紙を書いた。番組内で DJ と電話で話している。] DJ「一方的に喋らないでくれるー? いいか、ロケット花火くん、君のひと言で彼女、大きな一歩を踏み出せるかもしれないんだ……。今しかないぞ、素直な気持ち、ぶつけてみろよ」【ごめん 78】
- 例 16 [理々子は有名脚本家の代わりにドラマを書けとプロデューサーに言われている。] 理々子「売れてはいるんだけど、彼女の作品、好きじゃないの。二話までの台本も超つままないし、どうして彼女が評価されてるのか、ぜんぜんわかんない」/倉木「いいチャンスじゃないか。同じコンクールでスタートした者同士なのに、なぜ彼女は成功し、理々子は今もくすぶっているのか、その違いを学んで来いよ」【恋せ 175】
- 例 17 [耕介は好きな女性に振られる。] 耕介「なんでこう裏目に出るかなァ」/店長「……まだ終わっちゃいない」/耕介「え」/店長「勝負はこれからだ」【今夜 231】

6-2-4 協力者・支持者の存在を示す

相手に協力したり支持したりする人間がいることを示して励ます。例 18、19 は自分が協力者であることを伝えており、例 20、21 はみんなが相手を支持していることを伝えている。

- 例 18 [助産婦の静は十五才のいちごが妊娠していると誤解している。] 静「結婚してらっしゃるの?」/いちご「ううん、まさかァ」/静「(心得顔で優しく) よくよくの事情ね、ともかく勇気を持って、頑張りなさい」/いちご「はい?」/静「(名刺を出して) 困ったことや、不安になったら、一人で悩んでないですぐ電話下さい」【大地 81】
- 例 19 [新ちゃん (=勝造の父) が警察に連行され、勝造が一人残される。] おとこ姉ちゃん「勝造! 新ちゃんが戻ってくるまで、私が親代わりだから」【少年 136】
- 例 20 [コスメ (=村井) は性同一性障害だが、父親に認めてもらえない。] ビル「病気でもゲイでも変態でもコスメはコスメだよ、みんなおまえ好きだよ、元気だせよ」/村井「ありがとう (涙ぐむ)」/吉井「変態、では決してありませんよ」【ごめん 243】

- 例 21 [石上が売れっ子脚本家だった頃の思い出話をしている。] 石上「——若かったからな」／美沙「今でもお若いわ」／石上「いやもう駄目だよ。全然パワーがない」／美沙「そんなことないわ。先生の作品みんな待ってます」【町 38】

6-2-5 自分と相手の問題の共通点を示す

自分が相手と同じ問題や負の経験を克服した、あるいは克服しようとしていることを示し、同様に行動するよう促して励ます。

- 例 22 [助産婦の静は中学生の英輔が赤ん坊の父親だと誤解している。] 静「あら、あなたがお父さん」／英輔「え、いや——」／静「頑張りなさい。世間の偏見や中傷に負けないで。私は 17 才で双子を産みました」【大地 94】
- 例 23 [初音は原爆投下時の広島放送局での体験をマスコミ志望の若い陽介に話した。] 陽介「初音さん、僕はすごく恥ずかしいです。うわべだけ見て、マスコミや報道の仕事がカッコイイとってたなんて……。ほんとは、ものすごく責任が重くて、道を誤ると怖い仕事……なんですね」／初音「うん……そうね。でも、藤井君には、その怖さを知った上で、ひるまずに前に進んでほしいわ。自分の目と耳を最大限に使って、自分の言葉で正確に語ってほしい。私は戦後、アナウンサーになるという夢を捨ててしまったけれど、一人の市民として、何が本当のことなのか、いつも自分の心に問いかけていきたいと思ってるんよ。美しいメロディーが二度と空襲警報で中断されないように」【放送 285】
- 例 24 [町田は殺人事件の遺族として訴訟を起こし、マスコミで盛んに取り上げられている。] 北川「気にすることないよ。君は政治家でもなければ、タレントでもないんだから」／町田「そうですね。僕は捨て身ですから」／北川「(頷き) 俺もね、記事を書いたあと、脅迫されたり、訴えられたり、散々なんだよ。でも、自分が正しいと思ってやったことは、きっと誰かが認めてくれるんだ、そう信じてやってる」【なぜ君 16】

6-2-6 自分の行為の提供を申し出る

相手のためになる行為の提供を申し出ることによって励ます。

- 例 25 [涼子は弁護士。みゆきは訴訟を取り下げようとしている。] 涼子「私は……娘を亡くしたことはありません。子供を産んだことも……。だから、本当にはあなたの悲しみはわからないかも知れない……」／みゆき

- 「……」／涼子「でも、最後まで、あなたにつき合いたいです」【マチ 140】
- 例 26 [平助は] 平助「ただいま……え、何してんの？」／平太「どうだった理事長、門前払いか？」／平助「……うん」／平太「守銭奴のくせに、世間体ばかり気にしやがって。諦めんなよ、いざとなったら俺ら OB、みんなお前の味方すっから、信じた道を突き進め！ 頑張れ！」【ごめん 246】
- 例 27 [杏子の兄が女性（＝振袖）とお見合いをした。杏子の友達は兄が好きだったが、諦めようとしている。] 杏子「大丈夫。ぜんぜん間に合うよ。今までの経験から言って、その振袖にはふられるし、私、どうにかしたげるよ。兄貴けしかけて」【ビュー 246】
- 例 28 [庭野と鮎川は通産省の官僚。コンピュータ開発をためらっている大沢無線の社長を説得しようとしている。] 庭野「戦後の貧困からようやく復興しつつあるこの国が、この先に必要なのは、新しい一歩を踏み出す勇氣と決意です」／鮎川「……」／庭野「大沢無線がその魁となる決断をするなら、我々も全力でそれを支援し、国産電算機の時代を必ず作りあげます」【官僚 130】
- 例 29 [台風でバイオリン製作所が壊れる。] 南伊子「(自分に言い聞かせるように) 道具は乾かせば使えるし……材料は今日から又集め直せばいい。私も手伝うわ」【海峡 176】
- 例 30 [政雄は友達之母親のためにストレプトマイシンを手に入れようとして稼いでいる。] 和枝「(シンミリと) ヘエ、エライねあんた。友達の為にそこまでしようなんて」／国子「ほんとだ」／和枝「ヨシ二千円の約束だったけど、奮発して五百円余分にあげちゃう。(札を政雄に渡し) お金溜まったら、私たち訪ねておいで。必ずストマイ手にいれてあげる」【焼け跡 93】

6-3 問題の対処方法を示すことによって励ます

相手の問題にどう対処したらよいかという方法を示すことによって、相手を励ます方策である。

6-3-1 対処方法について助言をする

相手の問題を解決するために必要な行為、あるいは有効な行為を示し、それを行うよう促すことによって励ます。例 31～33 のように指示や助言の形で促すものや、例 34、35 のように何かを行うことが良い結果を生む

ということを暗示する形で促すものが見られる。

- 例 31 [朋子と悟は恋人同士。有徳は朋子の祖父。] 朋子「うらやましいよ。悟はなりたいたいものがある。朋子なんか、何やってもダメだって気がするもん」／有徳「諦めが早いな」／有徳、笑いながら、自分で車椅子を動かして部屋を出る。／有徳「でも、やりたいことからやってみろ。人生はあつという間だ」【義父 161】
- 例 32 [和臣は安男の父親。幽霊になって出て来た。安男は兄弟とうまくいっていない。] 和臣「安男。人に何かをしたことより、人に何かをされたことを嘔みしめるんだ」／安男「——」／和臣「そうすれば、もう一度おまえが浮かぶ目もひょっとして出て来る。安男……おまえはオレに一番似てるぞ」【天国 131】
- 例 33 [勇は出征前で、紀子との結婚を迷っている。] 幸一「(明るく) 結婚すればいいじゃないですか、勇」／勇「……」／幸一「紀子さんと一緒になりたいんやろ」／勇「(一瞬あるが) はい」／幸一「紀子さんも同じですよね」／紀子「はい」／幸一「だったら、今の気持ちを大切にしなきゃ、ね、お母さん」／美知子「(微笑) はい、お父さん」【さとう 16】
- 例 34 [鶴が同行していた女性が殺された。女性の両親が悲しんでいる。] 鶴「刑事は人を救えるのかな……死んだ人は帰ってこないのに」／黒木「バカ、事件を解決することがご両親を救うことになる。ほんの少しだがな」【ゴンゾウ 208】
- 例 35 [りさの婚約者は以前、りさの姉が好きだった。] りさ「絶対ひきずってと思うの、姉のこと。張り合っても仕方ないけど、女子力出されたら勝ち目ないからな」／淡島「蜂谷、男を捕まえるなら、まず胃袋だ」／りさ「胃袋?」／淡島、弁当箱を片付けながら、淡島「結婚するんでしょ? 胃袋つかまえとけば逃げられないって」【ごめん 281】

6-4 問題に対する異なった視点を示すことによって励ます

問題について相手が認識していることと異なる視点を示して認識を変えさせ、別の行動を促して励ます方策である。

6-4-1 問題を矮小化する

相手の問題が、実はそれほど大きくないという見方を示して励ます。例 36 では、「川上さんも一人の女性に過ぎない」ということ、例 37 では「左目が失明してもまだ健康な部分がある」ということを述べて、問題に対す

る考え方を考えるよう促している。

例 36 [耕介は川上さんに振られて落ち込み、雑貨店の店長と話している。]
店長「忘れてるかも知れないから言っとくけど、世の中、男以外は皆、女なんだよ」／耕介「……川上さんは特別だよ」／店長「女なんてもんはな、下から見上げれば、皆、同じ顔だ」／耕介「……」／店長「早いとこ、忘れちまって、次へ進め」【今夜 308】

例 37 [剛は左目が失明しかかっている。] 幸介「なあ…お前ははまだよ、右目はどうにか残ってんだろうが」／剛「まあ」／幸介「それがたとえ潰れてもよ、耳も頭も残ってんだろうが。それだけありゃ十分生きていけんだよ」【ミエル 128】

6-4-2 問題を普遍化する

相手の問題が、誰にでも起こり得る普遍的・一般的な問題であるということ
ことを述べ、考え方を考えるように促して励ます。

例 38 [智子は家族の死に近いことを知って、泣く。白石は智子の父親。] 白石「泣くんじゃない!」／智子「!(顔を上げる)」／白石「生あるものは、いずれ朽ちるんだ。俺だってお前だって例外じゃない。そんなにひとりぼっちがイヤなら、おまえの家族を持て。家庭を作れ。作り上げろ」【長生き 71】

例 39 [患者が声を出す訓練をしている。] 指導員 A「慌てず、焦らずにやりましょう。原音が出るまで、一年かかる人もいますよ」【茶湯 291】

例 40 [安男は人生がうまくいかず、くすぶっている。マリは恋人。] マリ「くすぶりがもう一遍目を持つのはね。早けりゃ二年、遅くても三年」／安男「無理だよ、オレは」／マリ「黙って聞けッ」／安男「……」／マリ「私が付き合ってきた男はみんなそうだった。早けりゃ二年、遅くても三年。私の経験によれば、目を持つ時には必ず事件が起きる。それまでドブプリと沈んでいたのに立ち上がらなくちゃならないような事件がね。それをキッカケにして人生が変わるの。ねえヤッさん、お母さん死なせちゃ駄目だよ、コレ、勝負どころよ、きっと。多分、ヤッさんの人生もかかっている。多分じゃなくて絶対」【天国 98】

6-4-3 別の見方を示す

問題に対して相手の否定的な見方とは異なる肯定的な見方を示し、考え方を考えるように促して励ます。

- 例 41 [神原は弁護士。依頼人である被告が有罪であることに気づく。太田は上司。] 神原「このまま、知らん顔をしろということですか……？」／太田「(聞こえぬふりで) 法廷では、驚かされたが、逆に言えば、今は有利に和解をもちかけるのに、絶好のタイミングだ。腕の見せ所だよ、神原くん」【マチ 135】
- 例 42 [玉木、片山は通産省の官僚だが、海外勤務を命じられる。池内は上司。] 池内「次官レースで風越の対抗馬と目されていた玉木が海外に出されるとは、俺も意外だったなあ」／片山「今の通産省に国際通称派の席はありませんから」／池内「そんな事はない。これからは新しい時代だ。お前達は飛ばされたと思ってるかもしれないが、世界を勉強するいいチャンスだ」【官僚 121】
- 例 43 [有徳は信子の義父。信子の誕生日に電話をかける。] 有徳「(声) 今日だったね」／信子「はい、お父さんだけです、覚えていてくださったの」／有徳「いくつになったね?」／信子「四十です。もう、めでたい歳でもないですけど……」／有徳「いやいや、四十代はまだ少年時代、いや、少女時代だ」【義父 132】

6-5 相手の弱さを指摘することによって励ます

相手の弱精神的・肉体的な弱さを指摘して叱責し、もっと強くなるよう促して励ます方策である。

- 例 44 妻「声はリハビリで回復できるというじゃありませんか」／私「そんな保証がどこにある。何ヶ月、いや何年かかるんだ。私はもう若くない」／妻「そんな気弱になってどうするんです。リハビリを重ね、職場復帰した人もたくさんいらっしゃるわ。今は、出来る限りの事をやってみましょうよ。ね、あなた」【茶湯 290】
- 例 45 誠「あの……おれ、来てちゃいけなかったんですか……」／陽子「いいのよ、気にしないで飲みなさいよ」／誠「この間、みなさん、怒ってましたものね」／陽子「そんなことないの。はい、飲みなさいよ、元気出して、男がショボショボしてるもんじゃないの」【男たち 156】
- 例 46 [鶴は刑事。殺人事件で怪我をして入院している。上司の黒木が見舞いに来る。] 黒木「いつまでも寝転がってないで早く復帰しろ。俺なんか重度の筋肉痛をおして働いてるんだぞ」【ゴンゾウ 208】
- 例 47 安男「死ぬなよ。今、お母ちゃんに死なれたらオレ、もう生きて行けない。頼むから死なないでくれ」／きぬ江「生きて行かないでどうするの。私が死のうが死ぬまいが生きて行くしかないじゃないか。いつ

までお母ちゃんに寄っかかっているのさ。甘えるのも大概にしろ】/安男
「——」/きぬ江「ヤス、しっかりしろ」【天国 134】

6-6 自分からの依頼として行動を促すことによって励ます

自分のために何かをしてほしいという依頼の形をとって相手の行動を促し、励ます方策である。

- 例 48 [廃線になる電車の運転士に] 久恵「心機一転がんばって、そんで、嫁さんもらって、おばちゃんに子どもを抱かせてよ。ね」【プラ 279】
- 例 49 [豆腐屋「京や」の豆の質を落とすかどうか、親子で意見が分かれる。] 永吉「ええか榮太郎。京やの豆腐の豆は丹波の玉誉れと決まってるんや、それを変えたら京やの豆腐やない。それはお客様を騙すことや」/榮太郎「はあ……」/永吉「お父ちゃんの言うこと間違ってるか?」/榮太郎「いえ……」/永吉「お前には迷惑かけるが、ここは頑張りどころや。頼むで榮太郎」【あかね 122】
- 例 50 [塚田は社長の運転手をしているが、社長から次期社長にならないかと打診される。] 敬子「逃げないでね」/塚田「え?」/敬子「(笑って) 逃げないで」/塚田「……」/敬子「私、やっぱり、運転手夫人よりも社長夫人の方がいいもの。変に謙遜なんかしないで、お引き受けしますって言ってね」【シュー 98】
- 例 51 [男子校の学生が女子校と共同で文化祭を開こうとするが、理事である村井の父親に反対される。] 村井「(立ち上がり) 俺、やっぱり共学がいい!」/中井「おれ?」/村井「パパが何と言おうと、共学にすべきだと思っ!」/中井「そうだよ、せっかく校歌作ったんだから、ぜったいやってよ青春祭! 行くから!」【ごめん 257】

7. おわりに

励まし発話の方策を分類すると、やはり田中(2012)で挙げた慰め発話の方策と類似するものが多い。前章分類の6-1から6-4までは慰め発話の方策と重なる部分である。同じ方策を用いた励まし発話と慰め発話を比較してみよう。例1は励まし発話、例52は慰め発話である。

- 例 1 [春平は帽子屋を止めようとしている。] 世津「(目に一杯涙をためて) 帽子屋……やめちゃ、駄目だよ」/春平「……(顔がゆがむ)」/世津「目

本一の帽子屋なんだから】【帽子 43】

- 例 52 [丸山が昌鉉の作ったバイオリンを厳しく批評した。] 南伊子「気にしないで、丸山先生は口が悪いの。あなたのバイオリンはとても…綺麗な音だと思わ、それに」／昌鉉「(遮って) 忘れてしまう、書くものを、何か書くものを！」【海峡 146】

二つの例はいずれも相手をほめるという方策を採っているが、その方策を用いて例 1 では「帽子屋をやめずに続けろ」というように相手の積極的な行為を促しており、例 52 では「丸山先生の批評を気にするな」というように相手の負の感情の解消を行っている。こうした点が二つの発話行為の違いである。

一方、6-5、6-6 は励まし発話に特有の方策と言える。相手の弱さを指摘し叱責する形で励ますという行為と、相手に依頼する形で励ますという行為は、相手への配慮という観点から言うと、まったく逆の方向性を持っているが、どちらも励ましの方策として用いられている点が興味深い。

今後は教育への応用を考えて、励まし発話がどのような内容をどのような順番で述べていくかという展開方法についても類型化を試みたい。

用例資料

- 鎌田敏夫 (1987) 『男たちによろしく』立風書房【男たち】
 三谷幸喜 (1998) 『今夜、宇宙の片隅で』フジテレビ出版【今夜】
 宮藤官九郎 (2010) 『うぬぼれ刑事』角川書店【うぬぼれ】
 宮藤官九郎 (2014) 『ごめんね青春！』角川マガジンズ【ごめん】
 日本脚本家連盟『テレビドラマ代表作選集』(1998 年版～2011 年版)
 ※以下、本稿に用例として記載したもののみ列挙する。
 (1998 年版) 倉本聰「町」【町】
 (2000 年版) 竹山洋「少年 H」【少年】／北川悦吏子「ビューティフル ライフ」
 【ビュー】／ミラーカク子「茶湯寺で見た夢」【茶湯】
 (2001 年版) 山内久「袖 振り合うも」【袖】／市川森一「大地の産声が聞こえる—15 才いちご薄書」【大地】／井上正子「義父のいる風景」【義父】
 (2002 年版) 松原敏春「天国までの百マイル」【天国】
 (2003 年版) 尾西兼一「焼け跡のホームランボール」【焼け跡】
 (2004 年版) 遊川和彦「さとうきび畑の唄」【さとう】／清水有生「あかね空」【あ

かね]

- (2005 年版) 池端俊策・神山由美子「海峡を渡るバイオリン」【海峡】
 (2006 年版) 矢島正雄「零のかなたへ～ THE WINDS OF GOD～」【零の】
 (2007 年版) 井上由美子「マチベン」【マチ】
 (2008 年版) 大石静「恋せども、愛せども」【恋せ】／北阪昌人「プラットホーム」【プラ】
 (2009 年版) 池端俊策「帽子」【帽子】／古沢良太「ゴンゾウ～伝説の刑事」【ゴンゾウ】／高橋知伽江「放送を続けよ！～広島中央放送局の 8 月 6 日」【放送】
 (2010 年版) 佐伯俊道「長生き競争！」【長生き】／橋本裕志「官僚たちの夏」【官僚】／大友啓史「白洲次郎」【白洲】
 (2011 年版) 長谷川康夫・吉本昌弘「なぜ君は絶望と闘えたのか 後編」【なぜ君】／鎌田敏夫「シューシャインボーイ」【シュー】／青木豪「ミエルヒ」【ミエル】／

参考文献

- 黒川直美 (2001) 「日本語母語話者による『励まし』行為の特徴」横浜「言語と人間」研究会 5 月例会研究報告
 塩見式子・米澤昌子 (2008) 「『慰め・励まし』の様相—シナリオを例として—」『関西外国語大学留学生別科日本語教育論集』18 号
 関山健治 (1998) 「日本語の『慰め・激励』表現にみられる Politeness Strategy—話者の性別と社会変数による影響—」『白馬夏季言語学会論文集』第 9 号
 田中妙子 (2012) 「ドラマのシナリオに見られる『慰め発話』の諸相」『日本語と日本語教育』第 40 号
 田中妙子 (2013) 「『慰め発話』の形式的特徴—文末表現を中心に—」『日本語と日本語教育』第 41 号
 田中妙子 (2014) 「『慰め発話』における慣用表現の使用」『日本語と日本語教育』第 42 号